

# 富山のくすりと前田利保公著『本草通串』

富山大学和漢医薬学総合研究所  
民族薬物資料館  
伏見裕利

# やのむねもと 矢野宗幹先生の著書

岩波講座 生物学 (動物学)

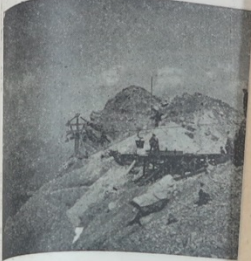
## 昆虫類

生態学

矢野宗幹

岩波書店

道業助補川事工 四一十



稲運



本の本柱で頂上迄架設した。工事中最も困難と  
感じたものは、重車用索の架設であつて、何分  
三五〇〇米の長さを纏ぎ合す一本の索に製  
作されてゐるから、索係自身の重さが三五種、  
運搬用重車を編へると約四〇程になる  
(第十二圖)それを運んで引上げるには、金

## 昆虫の採集と観察

理學士 矢野宗幹



### 一、蟲の採集と観察

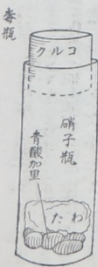
と云つても、それは二に大別する事が出来る。一つは成る目的をもつた研究の爲めにするの目的は、全くの趣味中心のものである。職業的研究を目的とするは、これには相當の設備と人と時間とが必要であり、又現代の其の方面の科學的知識の上立つて、以上の果行がある任務をなす事に努めねばならぬ。然し其が爲めであるならば、常事者の心の満足を得ればよい、必ずしも學業に詳しい學識をなすともいふ必要はないのである。隨ち蟲でも採得する由の天地であつて、又得られた文の檢査と知識とを充分な満足を得る。従つて先づの設備も費用も多し、與へられた時間と費用と、熱し熱心と根氣とで満足な結果

### 二、蟲を採る道具

此の中には蜂の様に毒針をもつたものがある。ツグメ(又はカメムシ)のやうに臭い香を體から出して手につくとなかなか洗つても取れないものが居る。蜂のやうに指でつまむと刺すので居る。蜂が刺れてきたらなるべく早く、是等に対してはゼンセットが一切ほしい。又多くの昆虫は取らふとすると飛んで逃れ去る。其の爲めに罌瓶を一つ用意したい。特別に用ゐるものでも三層しかしない。急の際に合はせる爲めには寒冷砂か何かでつくれば宜しい。罌取りの罌めは、大抵蠅や蚊のやうな熱帯な大きいものを日常に用ゐるから、罌取りを

### 三、殺し方

普通網子の罌又は筒で、コルクか、ゴムのきつちり合ふ罌をもつたものを用ひ、其の底に青酸加里の紙片を入れ、之の上を綿でをさへるか、石綿でかためて置く。之を蒸籠とか毒籠とかいふ。大抵のものより小形のものが便利である。但し蒸籠だから手に入れるのにこまるから



(五九九)





# 矢野宗幹先生の著書

## 方言研究

第五輯

日本方言學會發行

### 目次

- 本草家の動植物名研究……………矢野宗幹(一)
- 尾張三河の方言と農民言葉……………井之口有一(一九)
- 北海道方言素描……………土居重俊(四四)
- 會目短信……………(五五)
- 新刊紹介……………(七〇)
- 會務報告・その他……………(九八)

## 第二講演論文集

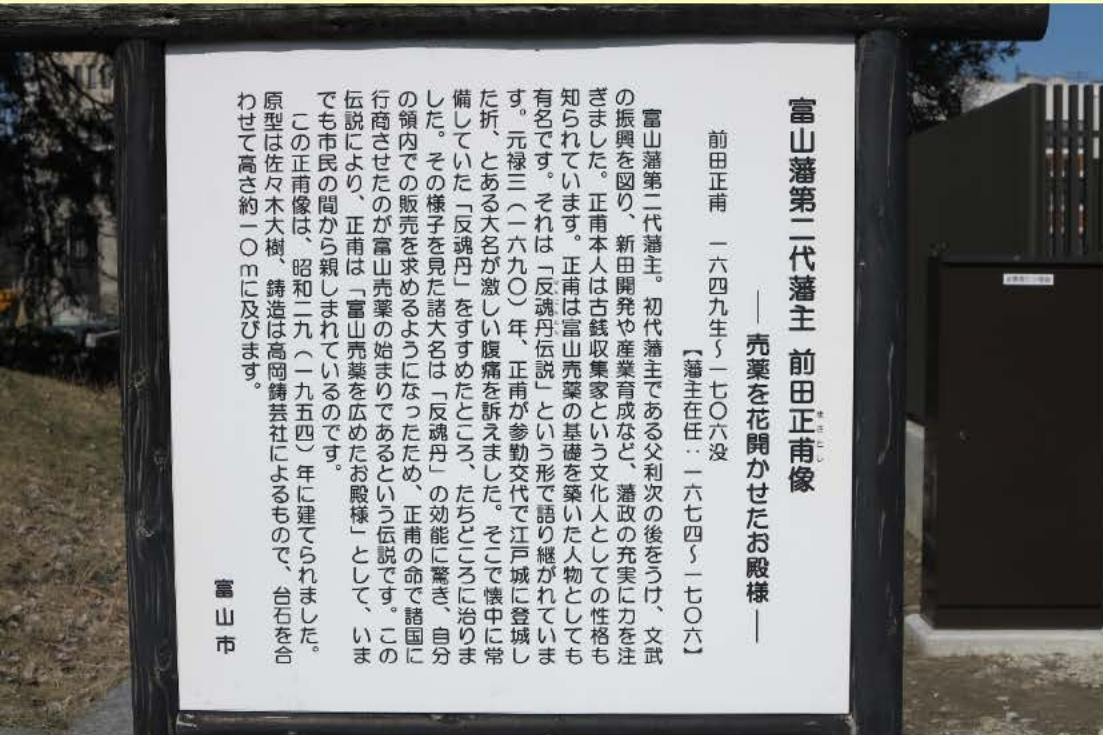
と私は思つて居る、斯様にして二十餘藩からの産物帳があるやうであるが、私はまだその分だけ調べて居ないし、知られないものが少くないと思ふ。此書が日本全國に涉つての産物調査であると共に、稻、麥、豆等の類は各も詳しく記されてゐるから農業史などの好資料でもあらう。又草木の名などには方言なども少くなく採録せらから本會の會員諸氏にも興味は少くないと思ふ。私はこの産物帳がどれ丈出來て居るかを知り度いと思ふ、御もあれば御教示を得たい。

本草研究は非常な隆盛になつて來た。其は經典の研究の爲めや、醫藥の實物を明かにする爲めばかりではな、本草辭のある人が多くなつて草木蟲魚金石を多く集める趣味の人も増し是を圖寫して珍藏する爲めに専門の寫生畫家も出來るやうになつた。一方江戸の踏壽館を始めとして各藩にも醫學館の設けられるものが多く其處では本草を講ずるのが一般であつた。小野蘭山が京都から江戸に迎へられたのは其例である。民間本草家にも本草を講じたのは松岡支達以來の事であるし、田村藍水等の藥品會の開催も各地に波及した。前田利保、黒田齋清、其他諸大名や、幕府旗下の士などの好學も此に應じて起つた。或は草花を栽培し貝を集め、金石を玩んだ。而して刊本、寫本の著書の數は日に増加した。其等の中で集大成した刊本が小野蘭山の本草綱目啓蒙である。其中には漢名の異名を多く集めると共に本邦各地の方言を採録する事も少くないが、其には可なり玉石混淆の恨がある。蘭山は若い頃には京都附近のみで研究し餘り遠くは遊ばなかつたかと思ふ、只江戸に出てから後紀州から東海、常野まで採集した。其以外の國の方言は恐らく門人の語る處を探つたと思ふが其の邊に誤のもとがあるではあるまいか。だから方言は廣く集められて居るとしても是書のみで其まゝ資料にはなし難いやうに思ふ。

この頃になつて國學の隆盛につれて本邦上代の動植物名の研究が盛になつた。萬葉集の動植物名の研究書のみでも五措に餘る。本草家も亦其方面に注目したものが少くない、中でも薩藩の侍醫、會繁の國史草木昆蟲攷と、紀藩の畔田伴存の古名錄とは其雙璧と云ふべきであらう。會繁は其學識によつて、成形圖說編纂の一人として薩藩に用ゐられたので



# 前田正甫公と江戸城腹痛事件



- ・富山売薬としての基礎を築く
- ・先用後利
- ・配置薬
- ・「反魂丹」(六神丸に似る) 妙功十一丸
- ・万代常閑(岡山)
- ・立山信仰
- ・藩主自ら、近江、奈良、田代

前田正甫公  
富山城址公園にて



曹洞宗  
真国寺

長岡御廟と真国寺

曹洞宗、御廟真国寺は、延宝二年(一七二四)に富山藩主前田公の  
願所「長岡御廟」の守り役として建立されました。

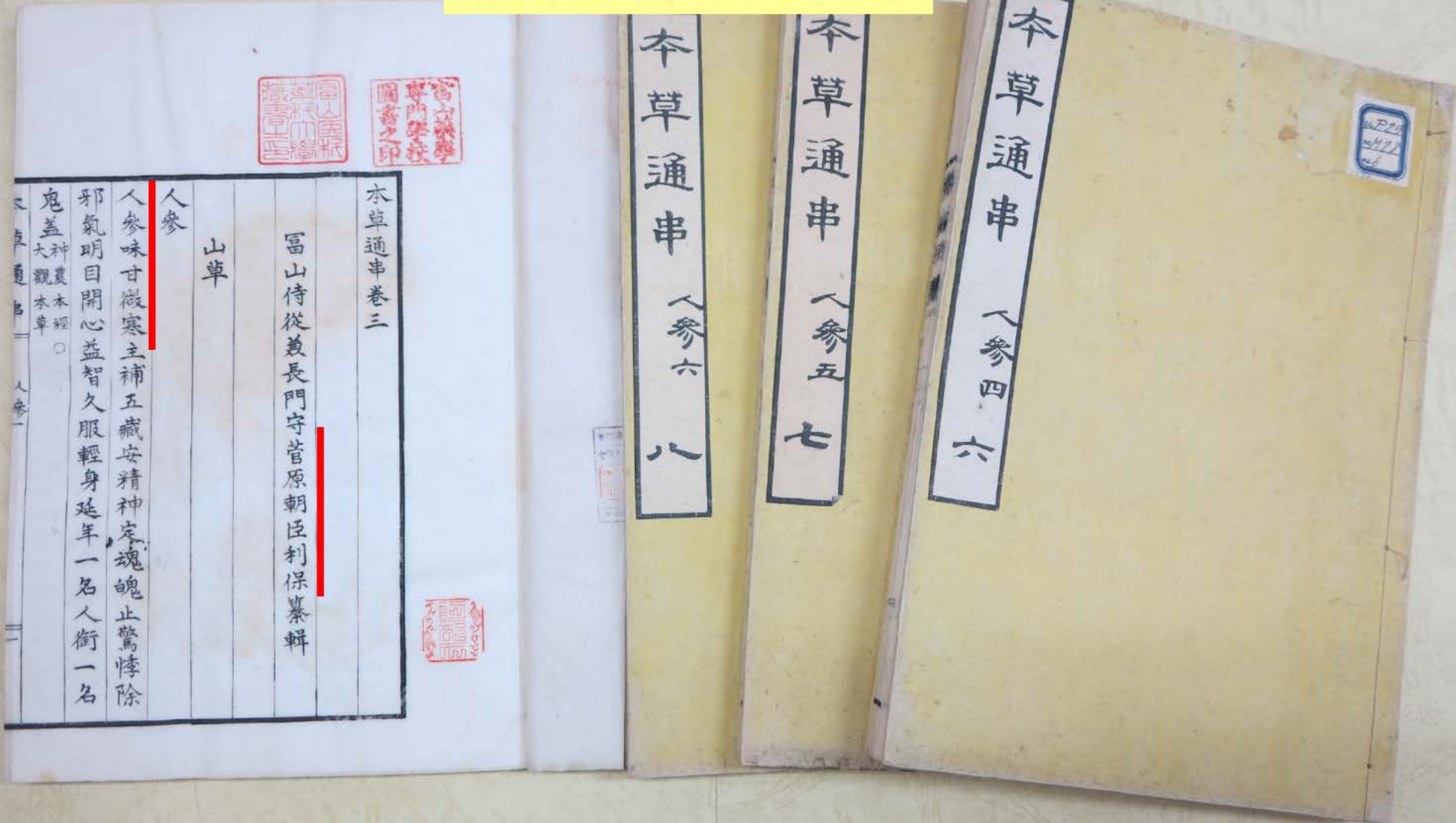


初代藩主利次(一六〇一)は、この寺があらじました。これは、青塚山に城を構えることとし、  
しかして蓮華(あまのつばき)に、利次は奉勅交代で江戸出陣すに、五十餘年を遊ばし、  
立願と願たせぬまま世界した天動次の胸中を想ひ、二代藩主正重(一六三二)は、青塚山に  
隣接した後面のこの地に又のたきかきを断つたのです。その翌年、願所の入口に長岡寺を建  
寺請をすん、永代に返つて願を守りたのでした。  
その後願所には、初代藩主利次(以下、十一代迄)の墓土、才助、側室等の墓が、  
つくられました。また、藩主埋葬のついでに石灯籠が奉納され、その数五百二十に達せたとす

二〇〇六年三月竣工之 第十九世 永田 円正 住持

# 富山藩十代藩主前田利保公が編纂した「本草通串」

(安政6年、1859年刊)



“資料館で所蔵する本草学の資料”



# 本草通串の内容(その1)

三葉其葉厚潤有深刻而無筋畧似銀杏葉每八月  
 中心抽一莖高三四尺開細白花如葢似葫蘆及胡  
 蘿蔔花秋後結子細小亦似葫蘆霜後枯宿根亦  
 能生也九月採根如葫蘆而淡白色以甘草汁蒸  
 乾則能類人參但頭無橫文蘆頭不枯縮耳功能亦  
 不及故用者鮮 和州吉野山中有自然生者又有  
 得真朝鮮參種植者並其葉根與朝鮮不異然甚希  
 而未足賣買 和漢三才圖會  
 機謹按 本邦古來稱人參者不鮮矣延喜式入貢

亦載焉皆沙參也故沙參有紫靈夏人參禿禿結  
 人參之訓或以防風藁本之類而充之故有涯罵人  
 參涯無人參之名其他以白芷羌活防葵之嫩根偽  
 之者往往不少也享保之初有嚴令禁夫質造之  
 參且令對馬之藩臣致朝鮮之生根又命肥前州長  
 崎之有司諭西清之船客攜來生根且使譯官應對  
 參之數條今錄備覽 沉茗園人參之承諭承問  
 人參產於遼東其自然而生者固多但觀每年產參  
 無窮其間或有人栽種亦未可定栽種之法還是下

本草通串 人參 二十八



## 延喜式：延喜5年（905年）

弘仁式・貞観式以降の律令の施行細則を取捨・集大成したもの。全50巻。

三代式の一。延喜5年（905）醍醐天皇の勅により藤原時平・忠平らが編集。

延長5年（927）成立。康保4年（967）施行。

規定の内容が微細な事柄に及び、百科便覧的な趣（おもむき）すらあるだけに、日本古代史の研究に不可欠のものである。

延喜式巻37. 典薬寮。各地の産物が記載されている。

「富山県で栽培可能な薬用植物」であると考えられる。

# 鵜坂神社

延喜式内社  
越の大社  
鵜坂神社  
↓





# 鵜坂神社





# 本草通串の内容(その2)

伏向趨向道壽之義也曰北雖大皆合數片而成之  
 其功力不及小者也曰碎皆出於碎條及蘆頭之中  
 也曰鬚根頭鬚尤細者也慎憲按直根無鬚毛無鬚  
則竹節參之鬚也恐縮君  
失考曰浮以人參完浸煎取汁晒乾售者也又名服  
 本草所謂湯參也浮者輕匏之謂服者取汁服之義  
 也又有實鉛假重者俱不任用曰小人參始生薩摩  
 州今處處有之三極五葉四五月有花細小紫白色  
 結子生青熟紅根橫生如竹節味甚苦其鬚嚼之甘  
 苦氣味微與人參相近又名三枝五葉草其苗葉花

實雖與圖經所說三極五葉相合然根形迥然不同  
 凡物有似而非者此物決非真人參也人多有以甘  
 草湯浸煮代人參用者尤不可也慎憲按三枝五葉  
生所說者指橫根如黃精者而未識真種故言如此  
也然此非他物亦可又按凡草木狀有大小葉  
有潤狹花有紫白實有圖長味有甘苦根天和二年  
 朝鮮國來聘時有人以此草問之彼國醫者曰此百  
 濟參也按東醫寶鑑云人參中心生一莖與桔梗相  
 似又不言別有此種大抵彼人言多謬妄不足取信  
也慎憲按韓人言不謬妄觀近世彼國所將來之參  
葉則恐過半矣又按東醫寶鑑所說者乃江淮



# 本草通串の内容(その6)

本草通串  
 云黒ボク土トハ別ノ物歟今云處ノ黒ボクニ植  
 ル時ハ根腐易シ赤土ニ白ノナル砂ヲ等分クラ  
 イニマゼタル土ニ植ベシ人參ニ相應スル地ハ  
 下野國都賀郡日光山信濃國ナド皆白ノナル砂  
 地ニテヨク出来ルナリ植ル所ヨリ南ノ方ニ並  
 木アリテ南風ノ鹽氣有テ防キ北風ノ陰氣ヲ入  
 ベシ故ニ海邊ニテハ植ルニハ竹ノ簣ヲアミ土  
 中へ埋カ鼯鼠ヲ防ベシ多ク作ニハ鼯鼠ヲ狩ベシ  
法ハ上卷ニ實バへノ内ハ搭棚ヲ依作り北ヲ高  
見ヘタリ

ク南ヲ低杉皮ニテ葺カ檜カノ如クカ拵日ト大雨ヲ  
 除ルナリ人參三四歳ニ至ハ葺簾或女竹ヲ編テ  
 平ニカケ置ベシ雨滴人參ニカ、リテモ苦カラ  
 ス却テ勢氣ヲ益コトアリ肥ハ荏ノ實ヲ蔞芽ヲ  
 生シタル時壑又荏ノ莖ヲ土へ切マゼタルモヨ  
 シ又復ノ内人糞ヲ土へマゼ置寒ニイテサセタ  
 ルヲ根廻へ切マゼ置ベシ植付タル所へ直ニ肥  
 ヲ用レバ蘆頭腐モノナリ植替ルニ右ノ肥土ヲ  
 マゼテ植ベシ肥過レハ種々ノ蟲ヲ生スルナリ

本草通串 人參五

ニ



# 日本国内:薬用人参栽培状況

福島県会津若松市:人参(*Panax ginseng* C.A. Meyer)



日本栽培地(福島県、長野県、島根県)



# 本草通串の内容(その8)

本草通串 卷之六  
參ト相混ジテ眞偽ヲ辨ズルニ及バザリシ歟和  
名モ共ニ相混ジテ人參ノ一名ニ入ラレタルニ  
ヤアラン譬バ本草綱目卷之二人參ノ氣味ヲ錄  
シテ甘微寒無毒別錄曰微温吳普云神農小寒桐  
君雷公苦黃帝岐伯甘無毒トイヘルカ如シ上古  
異邦ノ良醫各人參ノ氣味ヲ辨ジテ或ハ甘トシ  
或ハ苦トスソノ苦トスルモノハ節人參トイフ  
歟ソノ甘トスルモノハ眞ノ人參トイフ歟氣味  
混雜今ニ判ベカラズコトヲモテ余ハ上古ヨ

リ 皇國ニ人參アリソノクマノイト云フモノ  
ハ高麗參歟然ラズハ節人參ナラント思ヘリサ  
レバ秦ノ徐福神藥ヲ求メツ、竟ニ熊野ニ來住  
リシトイフコノ事國史ニハ載セラレズ古俗ノ  
臆度ニ出ルモノカラソノヨシナシトスベカラ  
ズ或云紀伊國熊野山下飛鳥之地有徐福祠當初徐  
墳又熊野新宮東南名蓬萊山有徐福祠福力稱タル蓬萊ノ神藥ハ熊野ニ生ル人參ナラ  
ン歟コレモ亦シルベカラズ件ノ方士ガ海ニ入  
蓬萊ニ赴キテ神藥ヲ求ルト云フハ史記卷六秦始

# 本草通串の内容(その9)

皇帝本紀二十八年及三十七年二見ヘタリ徐福史記  
 作徐又徐福力海東ニ止リシト云フハ後漢書七  
 十東夷傳倭國ノ後ニイヘリ後漢書ニハ夷洲及  
 五東夷傳倭國ノ後ニイヘリ潭州コレ徐福力止  
 指スノミイヅレノ國ナルヲシラズ昔舶來ノ  
 藥物ナキ時モ良醫ハ自ラ良醫ニシテ治療ニ事  
 ヲ缺サリケン了ル上世ニハ文字ナクテ方書ノ傳ラ  
 ガルヲ遺憾トスベシ又神農本經解故卷ニ人參  
 ノ和名解ヲ集録シテ云人參和名加那尼傑古察  
 蓋囊鈔譯曰鹿齒草藍水譯曰鹿逃草大洲譯曰蚊

逃草又曰香逃草大洲曰人參歷年者有香氣枯時  
 土皆有臭氣故名香逃草一名古馬那衣白石譯曰  
 神草秀庵譯曰熊膽未知孰是トイヘリ諸説銜盾  
 シテ多ク的ラス香ハ耗トコソイフナルニ香ノ  
 逃ルト云フコトハ雅俗並ニイフベクモアラズ  
 又蚊ハ人參ヲオソルト云事實ナクハ臆説ナ  
 ルベシ鹿齒草モ亦同シ麋鹿ノ芻ヲ吞テ反出シ  
 又コレヲ嚼かヲ齒かトイフサル故事ハ人參ニコレ  
 アルヨシヲ聞ガルナリ然ラバイヅレレヲ是トス

本草通串 人參六



# 和歌山県新宮市





# クスノキ科のテンダイウヤク

この植物は中国原産で、秦代に徐福が日本の南紀にもたらしたとの伝説があり、日本の暖地に野生化している。

芳香性健胃、鎮痛、鎮痙薬。  
処方名：芍婦調血飲。





# 和歌山県新宮市





# 本草通串の内容(その10)

潮水ニ清テ貯ヘウヲナド色々ノ魚ノ頭ト腸トヲ  
 思ヘヲ入テ食フ一人ノ分三勺ニモタラヌ麥十  
 レバ皆鹹草ノミニテ麥ハタマサカニ見ユ其鹹  
 草サヘ飽マテ及バズヤクナ藺ハマアシタナド  
 云モノヲ採入又海藻ヲモトリテ凌グトナリ△  
 朝鮮人參ノ種 水戸黄門光國御朝鮮人參ノ種  
 子ヲマカセ又其根ヲ別莊ニ植ラレ水戸エモ遣  
 ハサレテ植サセ玉ヒシトゾ享保ノ御代官園ニ  
 モ植ラレ野州ヘモ種ヲ下サレ世ニ普ク施コシ

玉ハントノ盛意ナリシカ野州ノハ繁殖シテ今  
 ハ世ニ施サル、マテニナリシトナン後モロコ  
 シニテ好ノルヨシアリテ長崎ノ奉行ヨリ乾根  
 及種子等ヲ彼國ニモワタセシト聞リ△サツマ  
 人參 薩州ニテ培養シテ出セリサツマ小人參  
 トモ云粟本瑞見ニ尋子シニ和産竹節人參ノ鬚  
 ヲ取り日乾セシモノナリ鬚人參吉野人參トモ  
 云フ根ハ苦ケレ毛鬚ハ苦カラズ却テ甘ク餘味  
 有リト丹洲云フ往年此モノヲ薩州エ尋求ラレ

本草通串 八卷 六





根元から30センチぐらい上で伐採する。





鎌で傷をつける。材まで達するように深く縦方向に傷をつける。





輪切り状に深く傷をつける。





維管束形成層の位置で、樹皮を剥がす。





# 黄柏エキスからなる家庭薬(2)

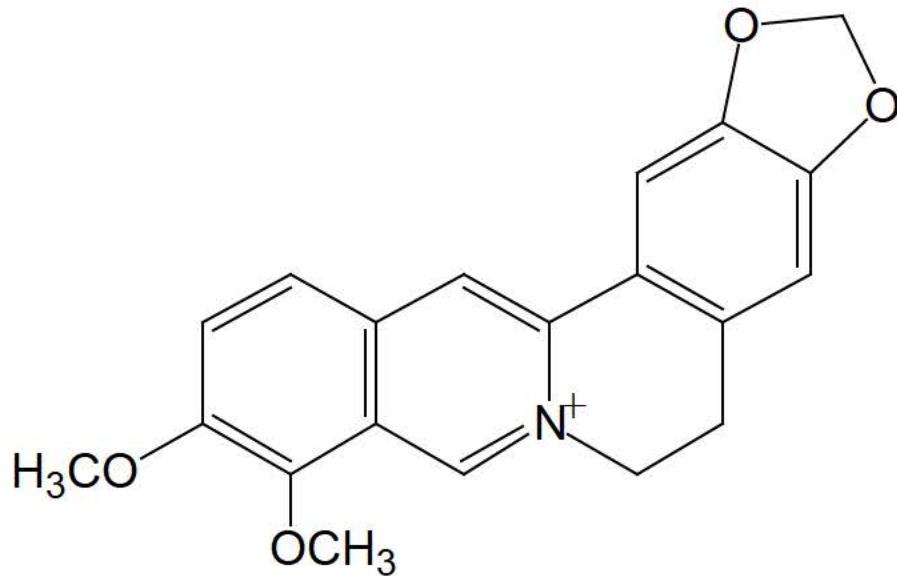
「陀羅尼助」という名称の由来

- ①「陀羅尼助」は、強い苦味をもつ薬なので、僧侶が陀羅尼経をとなえるとき、口に含んで眠気を催すのを防いだところから、陀羅尼経をとなえるのを助ける意味だと言われている。
- ②「陀羅尼助」は、陀羅尼経をとなえながら製造したことから、陀羅尼経の不可思議な霊力で人間を助けるのでこの名があると言われている。

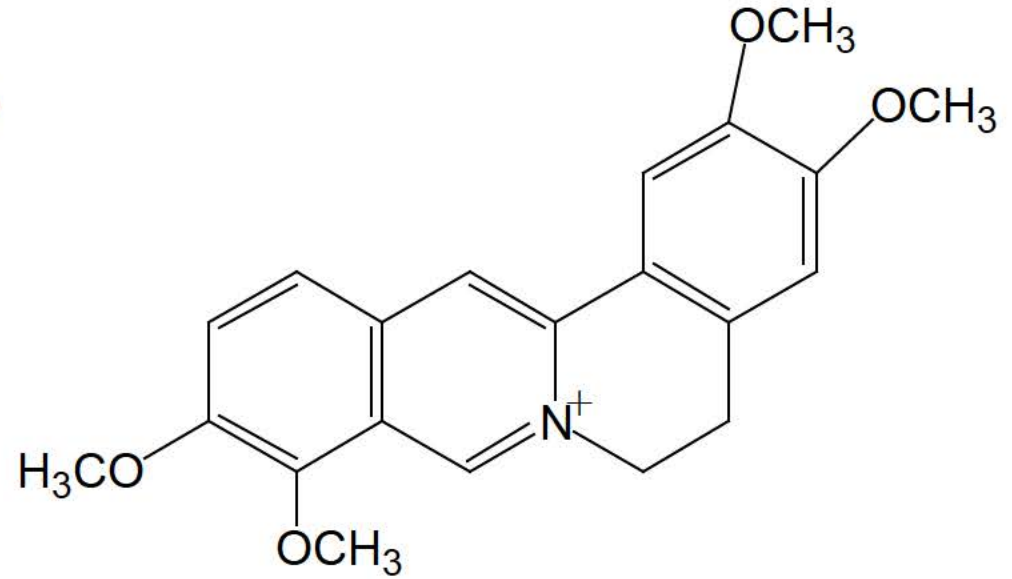


# 成分

アルカロイド:ベルベリン、パルマチン、マグノフロリン  
苦味トリテルペノイド:オウバクノン、リモニン



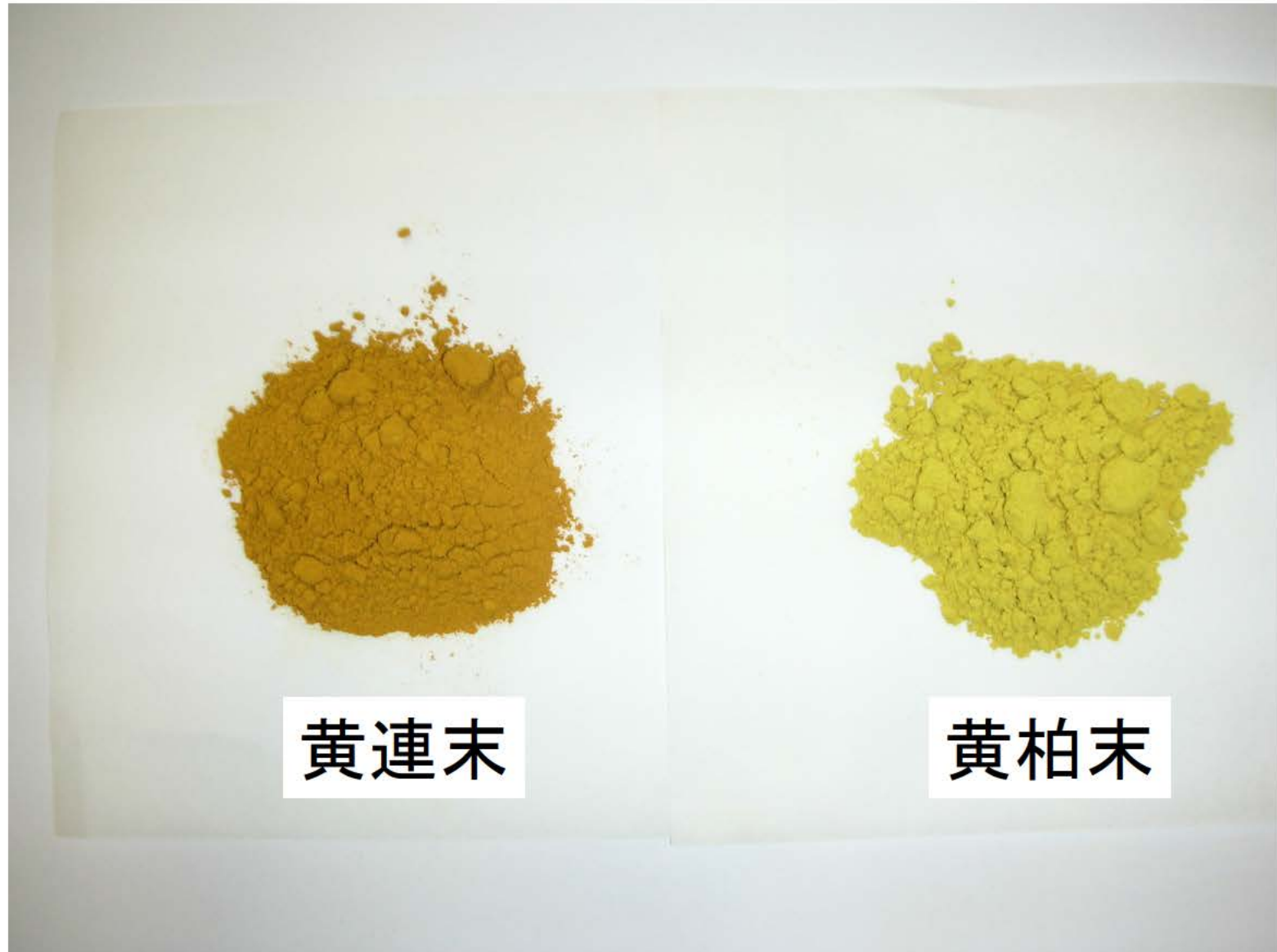
berberine



palmatine



# 黄柏末と黄連末



# オウレンの花

